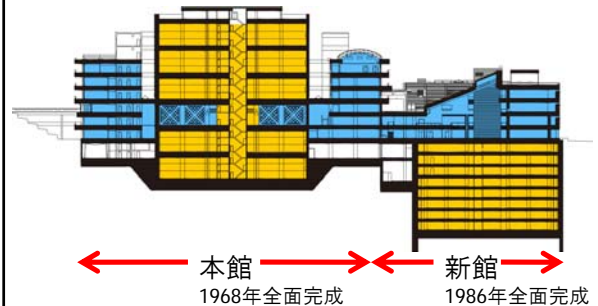


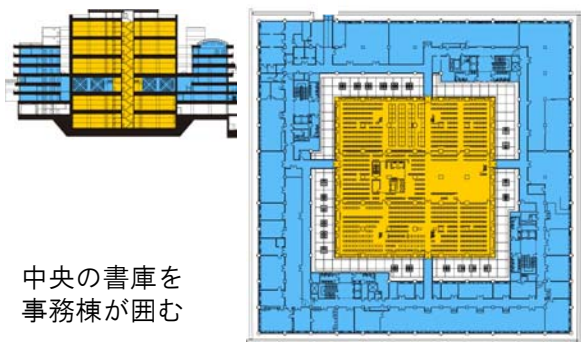
平成24年12月20日
第23回保存フォーラム
「地震に対する図書館の備え
ー良かったこと、分かったことー」
事例報告 国立国会図書館東京本館

収集書誌部 資料保存課
松井 一子

東京本館（東京都千代田区）

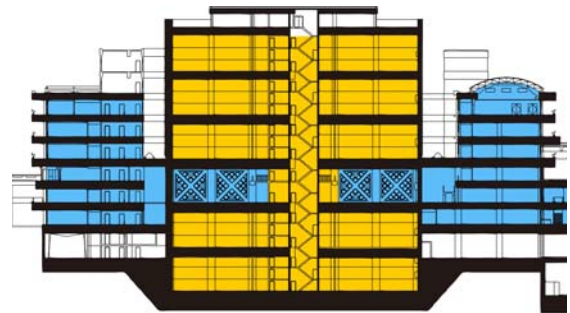


東京本館 本館

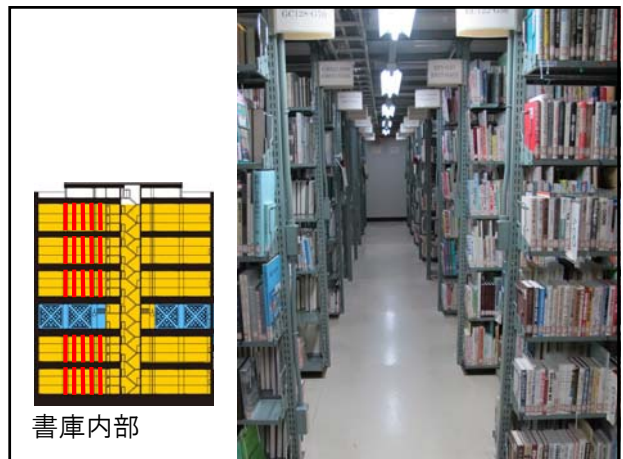
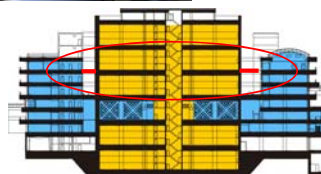


中央の書庫を
事務棟が囲む

東京本館 本館 積層式書庫



耐震改修工事



書庫内部



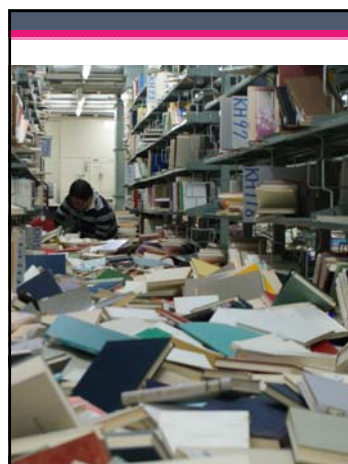
ブックサポートの使用



書架の並び

東日本大震災時に 本館書庫で落下した資料の内訳

階層	資料の概要	落下率	落下数 (概数)
17層	和図書(昭和63年～平成7年受入れ)、電話帳	ほぼすべて	53万冊
16層	和図書(平成8年～平成14年受入れ)	80%	50万冊
14～15層	洋図書(昭和43年以降受入れ)	70%	53万冊
13層	和図書(平成15年～平成19年受入れ)	30%	19万冊
12層	和図書(平成20年以降受入れ)	10%	3万6千冊



復旧作業

- ①落下した資料から、すぐに補修が必要なものを抜き出す
- ②すぐに補修しなくてもよい資料を書架に戻す

①すぐに補修が必要なものを抜き出す

製本構造(のど・見返しなど)にひどい破損があるもの

- ①表紙と本体が外れている
- ②割れている
- ③完全に外れたページがある

②製本構造に問題がなければ とりあえず書架に戻す

部分的な折れ、破れ、ゆがみがあっても、ばらばらになるおそれはないもの

図書館の一般的な地震対策

- 資料はなるべく棚板の奥に置く
- 資料と床の間隔を12～15cm以上あける
- 大型の本は書架の下の段に置く
-

→国立国会図書館では？

制約のある中で、現実的な対策を



参考文献

- 『国立国会図書館年報』平成22年度、平成23年度
<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>
- 大竹茂、山口佳奈、中島尚子 「東日本大震災による
国立国会図書館の資料被災状況および破損資料の
補修について」
『文化財保存修復学会研究発表要旨集 第34回大会
in 東京』文化財保存修復学会 2012 pp. 120-121